維新史再考　三谷　博著

西南戦争巡る西郷の謎指摘

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

（山内昌之・東京大名誉教授）

■ NHK出版・1836円

'18 新潟日報

維新史再考　三谷　博著

受益者としての近代日本

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

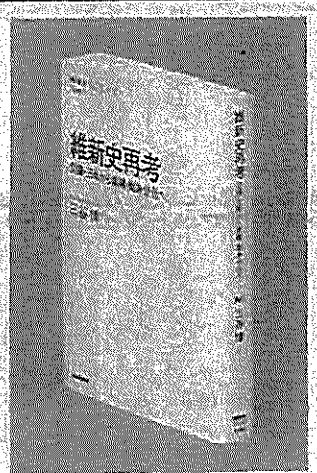
欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

（山内昌之・東京大名誉教授）



NHK出版　1836円

'18.2.18 高知新聞

受益者だった近代日本

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

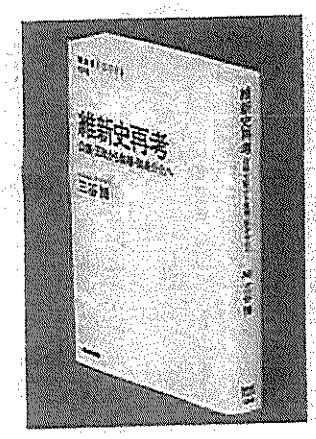
従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

▽評者＝山内昌之・東京大名誉教授

（NHK出版・1836円）



'18.2.17 北海道新聞

維新史再考　三谷博 著

本

維新史再考

三谷　博著

受益者だった「近代日本」

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

＜評者＞山内昌之・東京大名誉教授

NHK出版・1836円

18.3.4 山陽新聞

◆みたに・ひろし　1950年福山市生まれ。跡見学園女子大教授。専門は19世紀の日本・東アジア史。著書に「ペリー来航」「明治維新を考える」など。

■ 維新史再考 ■　三谷　博［著］

18.2.25 徳島新聞

受益者としての近代日本

［評］山内　昌之（東京大名誉教授）

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあったのだ。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

NHK出版・1836円

岩手日報

読書

維新史再考

受益者としての限界

三谷　博著

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

2018-3-4 岩手日報

維新史再考

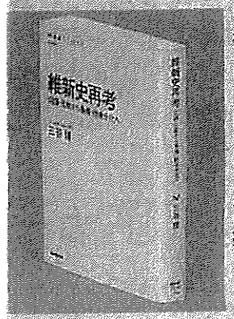
交通や通信の利益享受

三谷博著

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。



NHK出版・1836円

18.2.25 中国新聞

維新史再考

受益者としての近代日本

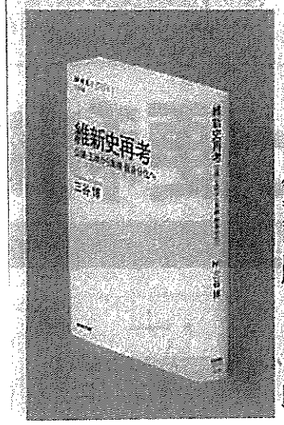
三谷　博著

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。



18.2.25 下野新聞

グローバル化の受益者

維新史再考

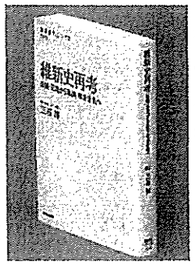
三谷博著

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。



従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

（山内昌之・東京大名誉教授）

（NHK出版・1836円）

2018.2.25 茨城新聞

維新史再考

交通や通信の利益享受

三谷博著

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

NHK出版・1836円

18.2.25 中国新聞

用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

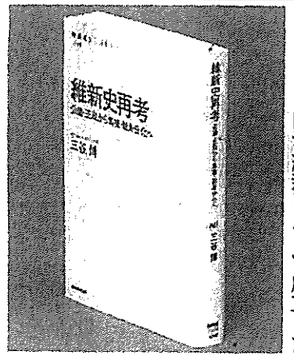
（山内昌之・東京大名誉教授）

維新史再考

三谷 博著

'18.2.25 愛媛新聞

評・山内 昌之＝東京大名誉教授



歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

西洋起源の秩序規範を借用

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

（NHK出版・1836円）

BOOK REVIEW

維新史再考

三谷 博著

'18.2.18 産経新聞

受益者としての日本

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

（山内昌之・東京大名誉教授）

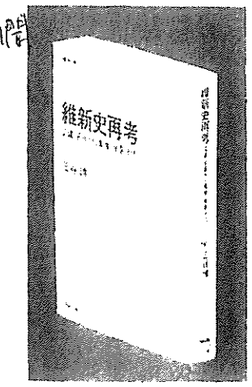
《NHK出版・1836円》

維新史再考

三谷 博著

'18.2.25 上毛新聞

グローバル化の中の日本



NHK出版　1,836円

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

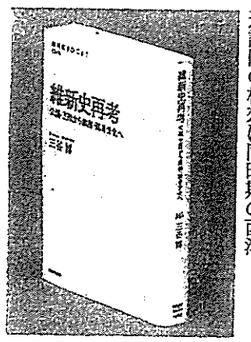
この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。（山内昌之・東京大名誉教授）

《NHK出版・1836円》

維新史再考

三谷博著

'18.2.17 福島民報



受益者としての近代日本

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約十二年後、一八六七年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本はグローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだという。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。（東京大名誉教授・山内昌之）

◇NHK出版・一八三六円

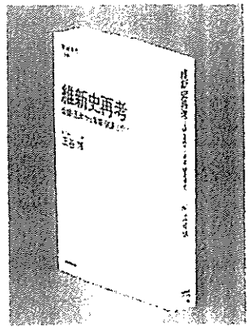
神奈川新聞　第3種郵便物認可

'18.3.4 神奈川新聞

西郷隆盛を巡る謎解き

■維新史再考

三谷　博　著　●NHK出版・1836円



歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新で成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

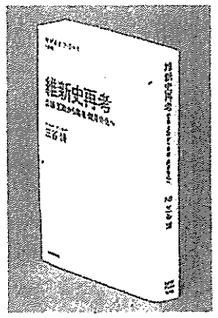
（東京大名誉教授・山内　昌之）

「維新史再考」

受益者としての近代日本

'18.2.18 熊本日日新聞

三谷　博著



NHK出版・1836円

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

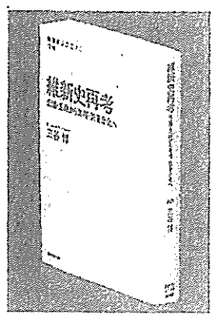
著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

評・山内昌之（東京大名誉教授）

新聞　2018年(平成30年)3月4日　日曜日　読書　10

受益者だった近代日本



維新史再考

三谷　博著

（NHK出版・1836円）

'18.3.4. 南日本新聞

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

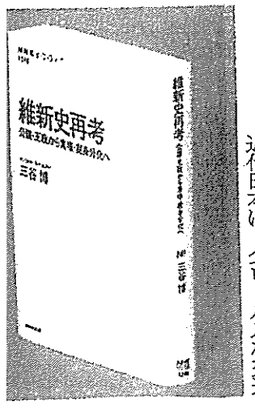
この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

（山内昌之・東京大名誉教授）

みたに・ひろし　1950年広島県生まれ。跡見学園女子大教授。

近代化と維新の謎解き

'18.2.25 琉球新聞



維新史再考

三谷　博

歴史のグローバル化の中で明治維新の意味を考えた著作である。

米国がペリーを日本に送った時、ウェブスター国務長官は、その企図を「諸大洋を結ぶ蒸気船航路の最後の鎖」と表現した。地球を一周する交通路を創ろうとする壮大なビジョンがあったのだ。

太平洋の定期航路第一船がサンフランシスコを出発したのは、日米和親条約の約12年後、1867年元日のことだった。明治維新で成立した新政府は、太平洋横断航路と北米の大陸横断鉄道の組み合わせを精力的に利用した。特に、岩倉使節団という新政府要人の欧米視察旅行は、この経路がなければ使命の達成も難しかっただろう。

欧州経由で北米と日本をつなぐ海底電信ケーブルも同時期に実用化し、留守政府は電信で使節団に帰国を催促した。要するに、明治維新によって成立した近代日本は、グローバルな交通・通信網の受益者だったのだ。

従って、西洋モデルの採用に批判的で、日本古来の在り方や儒教道徳の重要性を説く者にしても、西洋起源の秩序規範に代わる積極的なモデルを提示しておらず、そこに明治維新の特性と限界もあった。幕末に生まれた「公論」の主張にしても、維新後の民選議院の構想は同時期の西洋の理想と制度を借用せずには成り立たないものであった。

著者は明治維新を巡るいくつかの謎を指摘する。西南戦争で西郷隆盛はなぜ、幕末に島津久光が兵を率いて上京したように直接東京湾へ兵を送らなかったのか。船は少数でも、精兵を派遣すれば政府も慌てたはずだというのだ。それでも陸で行くというのなら、各地の士族を味方に付けるためにも大義名分が不可欠だった。だが倒幕では雄弁だった西郷が「この一世一代の大反乱」を起こした時、何も語らなかった。

この謎解きこそ維新史再考の大きな課題の一つではないだろうか。グローバル化と西郷との組み合わせは、まことに魅力的な検討テーマに思えてならない。

（山内昌之・東京大名誉教授）

（NHK出版・1836円）